

23: 正しい射形がいかに大切かについて

射法八節を正しく理解することで動作が滑らかに進み射形に品位、品格が出る。
正しい射形ができなければ射法のみにとられ体配がおろそかになり死気体となる。
弓道の最高目標である真善美の美を目指す。

24: 射礼の様式について

一般に行われる射礼は、的前射礼、大的射礼、巻藁射礼の三種であり、的前と巻藁前では坐射礼と立射礼、大的射礼は屋外で行うものなので立射礼とする。

的前射礼は、単身または多人数で行う場合があり、多人数で行うときも的を一つとする場合と、各自持的とする場合の二様式がある。

また、祭祀式典、競技、審査その他、射会の最初に行う射礼を矢渡しというが、主催者または行事の責任者が行い、屋内では坐射礼、屋外では立射礼を行う。

これらを行う場合で、

坐射礼は射会において、慶弔、答礼などのために行う。

立射礼は坐射礼と同じ趣旨で屋外の時行う。

巻藁射礼は神事、祝い事などの重要な儀式の際、矢渡しの前に行う射礼で、最上位の射手または権威者が行う。

25: 矢と弓の節について

射付節、箆中節、袖摺節、羽中節。走り羽、外掛羽、弓摺羽

弭冠節、姫反節、掛節、上成節、鳥肩節、目付節、足付節、矢摺節、手下節、下成節、乙腰節、小反節、引掛節

26: 巻藁練習の効用について

初心者の形の取得として、的までの距離にとられず安心して離れが出来、射法八節のとおり動作を確かめながら引けることができる。

練達者の形の矯正として、的に心をとられず、形の矯正や早気を直すことにも効果がある。

27: 審査を受ける意義と心構えについて

弓の最高目標は真善美であり漠然と練習しては得られない。

審査を受けることで息合い、間合いを知ることが出来、技量、体配がどの程度の水準にきているか分かる。段位を取得する事でその段にふさわしい弓を引く励みになる。